metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by
provided by Kwansei Gakuin Univer

2015 年度活動報告　交換授業：レギュラー1-1（文法・漢字）

小原 俊彦（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、初級前半の学習者を対象としたクラス（学生数６名）で行った。使用した教科書は『日本語初級 大地①』（スリーエーネットワーク）であり、第 13 課から第 22 課までを扱った。授業の中心としたのは、各課の文型・文法事項であるが、同時に、各課の中の漢字も抜粋して教えた。

なお、レギュラー１－１は週３コマであったが、本報告では、教科書主体の授業を行った２コマについて報告する。

2. 授業内容

授業は、２コマで１つの課を実施した。１コマ目では、初めに前回で終わった課の文法クイズと漢字クイズを行った。そして新しい課に入り、当該課の新出語句の確認を行った。その後、学習項目となっている文型・文法の３分の１から半分ほどを導入練習した。２コマ目では、１コマ目の学習項目の復習をし、それから残りの文型・文法の導入・練習した。文型・文法の学習が終わった後は、教科書の当該課の漢字を８つ導入・練習した。

文型・文法に関しては、学生の負担を軽減するため一部教えなかったものもあるが、基本的には教科書に従って教えた。また、適宜、コミュニカティブな要素も加味して教えた。漢字は８つの漢字から派生させた漢字語も教えた。

3. 成果と今後の課題

学期終了時の授業アンケートでは、４名が「満足」、２名が「とても満足」と回答した。学生の満足度という点では十分であった。

しかし、現実の言語活動という面から見れば、大きな成果を出したとは言いがたい。学生は、授業において、学習項目の文型・文法を使ったその場での「期待に沿った」発話をすることはできたが、自発的な発話においては、学習した文型・文法が十分な適切さで使えているとは言えない状態だった。これに関しては、授業担当者の力量の問題もあろう。しかし一方で、『大地』のような言語形式偏重の教科書を使っている限り、学生が現実の言語活動に従事できるように学習を支援するには限界があるとも考える。今後は、本クラスのもう１コマで実施した自己表現活動のような教室活動がいずれのコマでも実施できるよう、新たなパラダイムによる教育・教材の導入を検討すべきであろう。